



金融サービス事業

FINANCIAL SERVICES

金融サービス事業を取り巻く事業環境

証券事業においては、米国での株式売買委託手数料撤廃の流れを受け、日本でも各証券会社が一部手数料の無料化を進めています。SBI証券においても国内株式手数料無料化を段階的に実施しており、代替収益の確保を通じた高い収益性の維持が急務となっています。また銀行事業においては、コロナ禍による国内住宅ローン市場の低迷が懸念されており、新たな収益の柱とし

て異業種を含む様々なパートナー企業との連携強化による、新たなサービス創出と営業基盤の拡大を図ります。一方で、コロナ禍によって従来の生活様式に変化が生じており、非接触型ビジネスであるオンライン金融や決済システムの領域において、更なる成長機会があると考えています。

主要企業

中間持株会社：SBIファイナンシャルサービシーズ

SBI証券	SBIインシュアランスグループ (保険持株会社)
SBIリクイディティ・マーケット(SBI LM)	SBI損保
SBI FXTトレード(SBI FXT)	SBI生命
SBI VCTトレード	SBIいきいき少額短期保険
SBIマネープラザ	SBI日本少額短期保険
SBIネオモバイル証券	SBIリスタ少額短期保険
レオス・キャピタルワークス	SBIプリズム少額短期保険*
SBIベネフィット・システムズ	SBI FinTech Solutions
SBIソーシャルレンディング	SBIレミット
SBI BITS	SBIビジネス・ソリューションズ
ジャパンネクスト証券	SBI Ripple Asia
住信SBIネット銀行	マネータップ
SBIネオファイナンシャルサービシーズ	

※旧 日本アニマル倶楽部

2020年3月期の主な取り組み・今後の重点戦略

証券関連事業

- SBI証券およびSBIネオモバイル証券の合計口座数が540万口座を突破し、野村證券(株)を抜いて業界No.1に
- FX取引などの拡大に伴い、SBI証券の業績におけるトレーディング収益の貢献度が上昇
- ホールセールビジネスのうちM&Aアドバイザリー収益は2期で約18倍に拡大し、収益源として着実に進展
- 個人投資家から高い評価を受けている「ひふみ投信」等の投資信託を運用するレオス・キャピタルワークスの連結子会社化を2020年3月に発表(6月に子会社化)

銀行関連事業

- 2019年5月に(株)日立製作所と共同で設立したDayta Consulting(株)のAI審査サービスは、既に複数の地域金融機関における導入が決定
- 住宅ローン事業においては、2020年1月に(株)島根銀行が住信SBIネット銀行の提供する住宅ローン商品の取り扱いを開始するなど、地域金融機関との連携を強化
- ネオバンク構想の一環として、2020年4月より日本航空(株)との合併事業の第二弾となるJALマイレージバンク会員向け銀行サービス「JAL NEOBANK」の受付を開始

保険関連事業

- SBIプリズム少額短期保険*を2019年6月に買収したことも寄与し、SBIインシュアランスグループ各社の保有契約合計数は200万件を突破
- SBI損保におけるAI搭載型OCRを用いた自動車保険のリアルタイム見積りサービスの開始など、先端フィンテックの導入・検証を推進

2020年3月期における 連結税引前利益の事業分野別内訳(IFRS)

